



れきけん ニュースレター

Vol.15



- 特集：ボンカフェ解体 ～北海道胆振東部地震から～
- 旧相馬家住宅2棟（主屋と土蔵）が重要文化財に！
- れきぶんフェスが開催！
- 建築ヘリテージサロンが間もなく設立10周年！
- おすすめ・れきけんBOOK

●特集：ボンカフェ解体 ～北海道胆振東部地震から～

2018（平成30）年9月6日に起こった、北海道胆振東部地震にて倒壊した安平町早來の「ボンカフェ（旧小熊医院）」の解体までの取り組みについて、ご報告申し上げます。

旧小熊医院は1931（昭和6）年、石造2階建て、小樽の板谷商船とも縁のある勇払電灯株式会社の社屋として建てられました。その後、1945（昭和20年）小熊医院を開院。1985（昭和60）年、地域の人に惜しまれながら閉院しました。数年後、町の商工会として利用、そして昨年ボンカフェがオープンするというような活用の経緯を辿りました。



【震災前の建物】

震災後の9月9日に現地に入り、建物の状況を確認。建物は半壊で2階部分は崩れ「危険」の赤紙が貼られている状況でした。現場で偶然、所有者様に声をかけられ、自分が北海道ヘリテージ・コーディネーター（以下、北海道HC）であることを伝えご挨拶し、そして連絡先を交換させて頂きました。

その時点で所有者様は解体を希望しました。理由はカフェ横の薬局に倒壊した石がなだれ込んでいるため、早急に解体をする必要があるとのことでした。建物の解体時に出る軟石の活用をお考えでしょうか？とお尋ねしたところ、建物の一部を記念に持ち帰る以外は不要とのこと。別の建物を再生したい人が軟石を必要とする場合がある旨お伝えし、その際一報させて頂きたいとお願いし、私は現場を後にしました。各方面とのやり取りは下記をご参照ください。

- ・ 活ユーザー様から解体日程を、9月19日と教えて頂く
- ・ 札幌にある「軟石や」さんに相談、本件の軟石を活用するのは困難とのこと
- ・ 旧小熊医院をボンカフェへマッチングさせた団体は、軟石の再利用はしないとのこと
- ・ NPO法人れきけんへ、上記内容を全て報告

私は、ふと思いました。もし、所有者様が解体ではなく再建を希望した場合、どうすれば良いのかと。ソフト面は、個人的にも交流のあったNPO法人れきけんの東田さんに全てを報告し、どうすれば良いのか教わり、指示を頂くことが出来ました。しかし建物自体を直すハード面は、誰に相談したら良いのだろうか？物凄く不安になりました。技術的なことに疎い私は、有事の際やそれ以外も、技術を相談できる建築のプロの力を借りたいと強く思いました。建築のプロと、私たち北海道HCと一緒に活動出来る仕組みづくりをしていく必要性を強く感じました。



【解体中の様子】

そんなことを考えているうちに建物の解体が始まり、その途中で建物の軟石が一時、盗難に遭いそうになりました。思い入れの強い方が、意匠性の高い軟石の一部を保管していることが発覚したのです。これについては、解体する建物の全てが所有者様の財産であり、勝手に持ち出すことは犯罪になる可能性があると、保管された方にはご忠告申し上げ、軟石を回収しました。

建物の図面や写真等、この建物の記録を残したかったのですが、既に倒壊・解体してしまったため出来ません。せめてもの記録として、建物を構成していた軟石を所有者様に了承を得て一部回収し、産地の特定を試みました。

解体現場で3種類、色・素材・重さの違うものを採取し、有名産地の石の情報と照らし合わせ、3点中1点は「登別軟石」と判明。石の色、重さ、身の詰まり具合、堅さが「登別軟石」の特徴と一致。

「登別軟石」を研究されている方に確認してもらい、「登別軟石」と断定出来ました。

「登別軟石」は石が硬く赤みがかかっており、建物の基礎部分に多く利用されておりました。残りの2点は色・素材等が「札幌軟石」か「小樽軟石」か判断出来ず、札幌市南区にある「軟石や」さんへ持参し、石の鑑定をして頂きました。「軟石や」さんが持っておられた石のサンプルを見せて頂き、石の色・含有物・素材等で「札幌軟石」であることが判明。

安平町早来の旧小熊医院は、登別と札幌から石を運び、建設されたことがわかったのです。その旨を所有者様に報告し、この度の旧小熊医院の一件が終了しました。

私は建物の解体、または再生する際に一番に考えなくてはならないのは、所有者様の気持ちだと思います。やむを得ない事情であればあるほど、その気持ちを大切にしたいと考えております。この気持ちを忘れず、所有者様に寄り添った活動を今後も続けていきたいと、強く思った出来事でした。

(北海道ヘリテージ・コーディネーター：吉岡 因)



【調査した石】

●旧相馬家住宅2棟（主屋と土蔵）が重要文化財に！

れきけんが2016年4月に所有者株式会社エステート企画から調査を依頼され、同年11月に『旧相馬邸調査報告書』としてまとめた旧相馬家住宅が、2018年10月19日（金）開催の文化審議会文化財分科会の審議・議決を経て、「港町函館の町並みを引き立てる洗練された意匠の和風住宅」として重要文化財指定を文部科学大臣に答申された。この後、官報告示を経て正式に重要文化財（建造物）となる予定である。

「意匠的に優秀なもの」として指定され、答申書には次のように記されている。「旧相馬家住宅は、函館屈指の実業家である相馬哲平が明治末期に建てた住宅で、函館市元町末広町伝統的建造物群保存地区内の函館湾を望む高台に所在する。主屋は、内外とも和風意匠を基調とし、港を望む主座敷は良材を駆使し、雄大な座敷飾を備えた上質な意匠の書院である。また玄関脇に設けた応接室は、外部を下見板張として窓枠などを植物紋様の彫刻で彩り、内部も天井の中心飾りやモールディングなど、繊細かつ上質な洋風意匠でまとめている。和洋の文化が調和する近代の函館における、意匠優秀な住宅として高い価値を有している」。れきけんが関わった重要文化財は、博物館網走監獄の2件8棟に引き続き2つ目であり、代表理事が関わった帯広双葉幼稚園も加えると3つ目となる。今回の重文指定は、当法人の役割や活動の方向性に一層の励みを与えてくれた。（角幸博代表理事）



●れきぶんフェスが開催！

札幌市が策定を進める「札幌市歴史文化基本構想」を市民の皆さんに知ってもらおうと、平成30年11月23日に「さっぽろ・れきぶんフェス」が札幌駅前通地下歩行空間で開催されました。構想策定委員会の委員長でもある、れきけんの角代表理事の挨拶で開会。北海道大学観光学高等研究センター長の西山徳明氏、街歩き研究家の和田哲氏に、札幌の歴史文化資産を活かしたまちづくりや歴史文化の楽しみ方についてお話いただきました。また市民の皆さんが地域を調査して探し出した「お宝」について、参加者の中添眞さん、北海道ヘリテージ・コーディネーターの姉帯美保子さん、児玉恵美さんに発表いただきました。続いてパネルディスカッションでは、旧黒岩家住宅（旧簾舞通行屋）保存会事務局長の黒岩裕さん、札幌市博物館活動センターの古沢仁さん、古民家Gallery鴨々堂店主の石川圭子さんに登壇いただき、パネルディスカッションを行いました。札幌の歴史文化資産がしっかりと保存活用されてもっと魅力的なまちになって行くことを期待したいですね。（かみ）



●建築ヘリテージサロンが間もなく設立10周年！

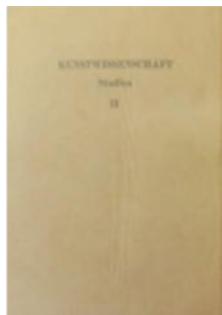
れきけんの連携組織である「建築ヘリテージサロン」の第20回総会が12月10日（月）に開かれました（参加会員26名+ゲスト他4名）。建築ヘリテージサロンは建築技能者（建築職人）有志によって地域の歴史・文化継承の技術支援と自らの技能継承を目的に2009年に設立され（代表：角幸博）、来年（2019年）には10周年を迎えます。節目となる今回の総会では、10周年記念事業として企画されている「金沢建築ヘリテージツアー」（2019年3月予定）への取り組みやこれまでの活動実績の報告が行われ、続く懇親会では会員の近況報告を通じて親睦を深め、今回も盛会となりました。（登尾未佳）



●おすすめ・れきけんBOOK ~れきけんアーカイブ 田上義也蔵書より~



■空間の思想
■著者：黒川紀章
■発行者：川村洋輝
■発行所：白馬出版株式会社



■芸術学研究
■著者：外山卯三郎
■刊行者：長谷川巳之吉
■刊行所：第一書房



■政治とアイヌ民族
■著者：山川 力
■発行者：西谷能雄
■発行所：未来社

★編集後記★

今年もあと残すところわずかとなりましたが、みなさんにとって今年はどうな一年でしたか。

来年は亥年。「無病息災」の意味がある年と言われているそうです。災害や老朽化などで保存活用が難しい歴史的な地域資産もありますが、れきけんは新年も保存活用に向けて頑張っていく予定です。

新年がみなさんにとって良い年でありますように！（かみ）

